

瑞宝中綬章を受章して

名誉院長・特別顧問 牧野 憲一



2026年春の叙勲において瑞宝中綬章を賜りました。私の長年行って来たことが評価頂いたものと喜んでおります。それと同時に、今まで私を指導して頂いた諸先輩、一緒に仕事をしてきた人たちに支えられて綬章出来たと考ええおります。4月29日の新聞等での発表の後、多くの方々からお祝いの言葉や花などを頂きました。その数は、昨年私が定年退官した時を遥かに上回っており、叙勲の重さをかみしめている所です。

新聞の取材も受けました。一体私は何を行って来たのか？改めて考える機会にもなりました。私は前院長である後藤名誉院長に引き立てて頂き、47歳の時に副院長になりましたがその当時の副院長だった後藤先生と、地域医療はどうあるべきか、どのような病院が優れた病院なのかを話したりしていました。この頃から、病院管理の重要性に目覚めていったと言えます。2003年に後藤先生が院長になったのに合わせて副院長になりました。副院長時代に行ったことは電子カルテの導入、医療安全の推進、DPC導入、地域連携の推進と地域医療支援病院の取得、ドクターヘリの導入、地域連携ネットワークシステム(旭川クロスネット)の導入、救急医療の推進など多岐に亘っていました。そして2012年に院長になりました。院長になってからは病院の質管理、入院支援センターの設置とPFMの導入、初期研修医の増員、提案できる事務職員の養成、リハビリテーション部門の拡充、旭川クロスネットのたいせつ安心医療ネットへの移行、医療介護連携への対応、ACPの導入、RPA導入とデジタル推進室の設置、AIの導入など病院が取り組むべき課題を先取りして取り組んで来ました。これにより、旭川赤十字病院はDPC特定病院の常連とな

り、地域医療に貢献できる病院に発展したと自負しております。また、私は日赤病院グループの推薦により日本病院会での活動も行わせて頂きました。そこから、中医協の入院・外来医療の調査評価分科会委員や厚労省の医道審議会医師分科会医師専門研修部会の委員などでの活動の舞台を頂きました。中央での仕事も次第に増えて多忙ではありましたが充実した日々を送ることが出来たと考えています。

5月13日に叙勲の日を迎えました。当日はホテルニューオータニにおいて厚生労働大臣(実際には公務の都合で副大臣が代行)から勲章を頂き、それを付けて皇居での天皇陛下の拝謁に臨みました。皇居の豊明殿において陛下からのお言葉を頂き、近くでご尊顔を拝することが出来ました。71年の生涯において初めての経験であり、意義深い日となりました。

私は昨年定年退官を迎え、院内での管理業務から退きました。しかし、日本赤十字社病院グループの経営委員、日本病院会副会長などを務めております。人口減少社会を迎え、生産年齢人口減少と高齢社会の中で、医療を取り巻く環境は大きく変わってきています。そしてそれはこれからの20年間でもっと大きく変化します。この変化に合わせて、各医療機関や医療提供体制が変化することが求められています。旭川赤十字病院がそして旭川地域の医療機関が無事この変化に対応することが出来、地域医療がしっかり機能し地域の人々が安心して生活が維持出来るよう願っています。そして微力ではありますが陰ながら尽力していくつもりです。